



ならの 吉野から その2

元気は

吉野の森と水の保全と活用をし、自然・文化・歴史を守り、吉野地域の産業振興や人々とのふれあいの場づくりを目的に発展する「吉野共生プロジェクト」。9月号「吉野共生プロジェクトとは?」に続き、人々の暮らしに根ざすさまざまな課題に向けて、事業や活動をすすめる諸団体の取り組みを紹介します。

“吉野の源水”が育む商品と雇用

吉野事業所は就労継続支援A型事業所^{※1}として、2016年にならコープ子会社の㈱ハートフルコープよしのによる運営が始まりました。吉野の豊かな水資源を利用した「奈良 桜よしの天然水」の宅配水事業と、その水を活用した水耕栽培事業に加え、田原本事業所での物流作業支援や店舗業務の一部なども担っています。当時2人だったフレンドリー社員^{※2}は、2020年8月現在で45人となりました。吉野町と連携し雇用創出に取り組み、町内イベントの参加などを通じて地域との関わりも深めています。

障がいの特性にはそれぞれ差があり、どう安定して仕事に来てもらうかを工夫する大変さもあるため、指導員が社員一人ひとりに寄り添いながら、仕事を覚えられるよう支援しています。私たちの一番の願いは、一人でも多くの社員が働く力をつけて一般就労することです。社員の皆さんがここでの経験を次に繋げることができれば、障がい者のステップアップと、世間の課題でもある人材確保の両方が叶う場になると思います。人の働きが機械化されるなか、水耕栽培のレタスは人の手で育てています。これには雇用創出だけではない意味もあると思います。例えば皆さんが買い物で『一つずつ人の手で育てられたもの』という理由で私たちのレタスを選んでもらえれば嬉しいです。吉野の豊かな自然で製造される、「奈良 桜よしの天然水」「フリルレタス」のご利用、そして私たちの取り組みの応援をよろしくをお願いします。



フリルレタス

※1…就労継続支援A型事業所…「障害者総合支援法」に基づき、一般企業への就職が難しい障がい者に就労機会を提供し、生産活動を通してその知識と能力の向上に必要な訓練を行うことで、一般就労を目指した障がい福祉サービスを提供することを目的とした、県から認可を受けた事業所。

※2…フレンドリー社員…知的、精神、身体のいずれか、または複合の障がいを持つ社員。



株式会社
ハートフルコープよしの
吉野事業所
次長 白濱真理雄 氏



インタビュー
全文はならコープ
ホームページ
「吉野共生プロ
ジェクト」からご覧
いただけます

<https://www.naracoop.or.jp/action/yoshino/>

自然エネルギーによる地域の活性化



過去のつくばね発電所

小水力を利用した東吉野村の「つくばね発電所」は、大正3年から昭和38年までの間稼働していました。関西電力に勤める傍ら、過疎化する村を潤すことができないだろうかと考え、幼少の頃から馴染みのあった「つくばね発電所」を復活させたいという思いが芽生えました。

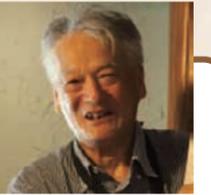


現在のつくばね発電所

2013年に地元有志による「東吉野村小水力利用推進協議会」を発足、2014年には「東吉野水力発電株式会社」を設立しました。さまざまな困難もありましたが、ならコープグループはじめ多くの方からの支援を受け、発電所の復活が2017年に実現しました。現在は「ならコープでんき」の電源として組合員の皆さんに自然エネルギーを活用した電気をお届けしています。事業の利益は、東吉野村の活性化に役立てたいと思っています。

自然エネルギーを活用し、村民の力で復活を遂げたつくばね発電所は、全国から注目されています。約1800人もの人が見学に訪れ、私自身も講演のため各地に赴きました。視察に訪れた方が同じように地元の発電所の復活を実現したという話を聞くと、「やってよかった」と改めて感じます。現在では、発電所を中心とした地域のネットワークが出来つつあります。古民家を活用した子どもたちの集える場もできました。吉野共生プロジェクトではこの間いろいろと支援いただき、発電所の隣には桜やカエデなど33本が「吉野の森と水を守るための募金」によって植樹されました。そのスペースも、今後人々がつどい、森と水を考える場にできればと思っています。

つくばね発電所の復活は始まりにすぎず、これからも地域のコミュニティが広がり、子どもの教育の場などでもできればと思っています。ぜひ東吉野村、つくばね発電所に遊びに来てください。



東吉野水力発電株式会社
代表取締役 森田 康照 氏

自然に触れて学ぶ森林と人の共生



奈良県南部農林振興事務所
林業振興第一課
田中正臣 氏

2007年にならコープと協定を結び、2008年から始まった黒滝村での「絆の森整備事業」活動は、①里山林整備、②手工芸品作り、③キノコ植菌の3つの分野を柱として、それぞれ年に1回開催しています。①里山林整備では、スギ・ヒノキの間伐や歩道整備・花木や山野草の植栽を行っています。山野草植栽はササユリの植栽が中心で、イノシシやシカ避けの防護柵も設置しました。昨年からは、開花するササユリも増え、今後組合員の皆さんと一緒に鑑賞会・展示会、お花見ができればいいなと夢を描いています。②手工芸品作りでは、木の実やスギ・ヒノキの枝葉など山からの素材・恵みを使ったツリーやリースなどを作ります。③キノコの植菌は、原木の伐採から植菌までを体験します。これらの活動は、黒滝村にお住まいの方を講師に招いたり、村の皆さんと共同で行ったこともあります。今後も村の皆さんとの交流も含め、組合員の皆さんが参加しやすい企画・活動を取り入れたいと思います。

現在黒滝村では村の特産品を作ろうと、昨年度からタモギタケなどの栽培を奈良県南部農林振興事務所と共同ですすめています。絆の森整備事業においても、村民の皆さんと一緒に植菌体験や試食会など開催できればと思っています。将来は、ならコープ商品として多くの組合員さんにご紹介できるまで一緒に育てていただければこんなに嬉しいことはありません。

黒滝村村史の冒頭には「郷土黒滝村は高原の桃源郷」という言葉がでています。絆の森が、地域のそして組合員の皆さんの桃源郷となるように里山の保全・整備を続けていきたいと考えています。



タモギタケ



絆の森整備事業

※3…絆の森整備事業…森林環境教育などの利用のための森林空間やアクセスなどの整備、地域コミュニティやNPOなどの参画を得た里山林の整備の推進が目的。森林所有者が所有森林を解放し、市民参加型による森林の造成を推進する事業。

村民による村民のための事業活動



一般社団法人
かわかみらいふ
専務理事 竹内 満春 氏

奈良県の南東部に位置する川上村は高齢化率が57%という過疎の村です。若者世代の流出のほか、都市部に住む子どもからの呼び寄せによる高齢者の転出が多いことも社会問題の一つになっています。こうした要因や将来人口予測を把握し、誰もが安心して住み続けられる仕組みづくりを考えて、村外の民間企業や村内の団体、地元金融機関や行政等が関わり「一般社団法人かわかみらいふ」を2016年に設立しました。

ならコープの宅配事業のほか、地元スーパーと協業した移動スーパー事業や、村内唯一のガソリンスタンド経営も行っています。拠点施設では復活した子ども会活動の支援など、住民との交流の場づくりを行っています。特徴的な取り組みとして、移動スーパーには看護師と歯科衛生士が同行し、お買い物に来る住民の健康チェックや生活相談、食生活のアドバイスを行っています。食材の提供だけでなく、美味しく食べることが日々の健康に繋がる「口は健康の入り口」の考え方を実践しています。お買い物のついでに健康相談ができることで病気の早期発見・早期治療となり、それが結果として地域の医療費の削減にも繋がっています。

地域でお買い物をすることで地域の中でお金が回り、それが生活支援につながる仕組みの「見える化」にもこだわっています。直近では、吉野消防署の協力を得て、急病対応としてスタッフ全員が救命講習を受講し、すべての車両にはAEDを搭載し、救急救命指導資格も取得しました。

日々のお買い物は、一人ひとりが関わる地域づくり活動という大切な仕事でもあります。これからも高い安さだけではなく、付加価値のある楽しい暮らしを村民の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



看護師・歯科衛生士の移動スーパー同行



宅配先にて